

「ポストコロナ」の時代に向け 社会・経済の復興に向けた一歩を踏み出します

明けましておめでとうございませう。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年、新型コロナウイルスの猛威に翻弄された一年でした。その中で開催された、東京五輪・パラリンピックでは、ひたむきに競技に打ち込む選手、スタッフの姿に勇気と感動をいただきました。また、手探りで始まった新型コロナウイルスワクチン接種では、「コロナに負けてたまるか」を合言葉に、医療従事者や市民の皆様から「オールしばた」でご協力をいただき、全国トップクラスの接種率を達成することができました。

ゆまぬ努力を続ける皆様に感謝申し上げますとともに、今年こそ穏やかで、良い年となることを心から願っています。

さて、当市では、「住みよいまち日本一 健康田園文化都市・しばた」を掲げ「健康長寿」「少子化対策」「産業振興」「教育の充実」の視点で市政運営を行っています。

本年はこの4つの視点を「ポストコロナ」という土台に載せたまちづくりを進めていかなくてはなりません。もちろん「第6波」への警戒を緩めることはできませんが、その軸足は「市民のくらし」に置き、社会・経済の復興に向けた一歩を踏み出す時です。

本年は、「新発田牛」の海外進出や廃校を活用したコワーキングスペースの整備など、新たな産業育成を進めます。これらの取組は単なる景気回復に留まらず、くらしを成長軌道に乗せ、この新発田が生まれ変わる覚悟で臨んでまいります。

今年のキーワードは「刻」。時を刻む、胸に刻むの「刻む」です。「十里の旅の第一歩百里の旅の第一歩 同じ一歩で覚悟は違う」というように、全国一斉に「ポストコロナ」へと一歩を踏み出す中、当市が目指す歩みはあくまでも「住みよいまち日本一」の高みです。変化を恐れず、地

域・年代・分野の壁を超え、時代や社会の要請に応じていく、その覚悟をしっかりと胸に刻み、一歩一歩、その足跡をポストコロナ時代に刻んでいく所存です。

今年の干支「壬寅」は「誕生」「芽吹き」を表すそうです。冬の寒さが厳しければ、命力であふれるように、「ポストコロナ」に真正面から向き合い、皆様といっしょに困難

を乗り越えた先に、明るく、希望あふれる新発田があると確信しています。

皆様のご理解とご協力をお願いし、本年が市民の皆様にとりまして幸多い年となりますよう、ご祈念申し上げます。

新年の



ごあいさつ

未来へつながらるまちづくりを目指し 一層努力いたします

明けましておめでとうございませう。皆様におかれましては、令和4年の新春を健やかに迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返ると、東京五輪・パラリンピックの開催が強く思い出されます。当市でも聖火リレーが行われ、その感動は東京五輪・パラリンピックのコンセプト「未来への継承」につながったと感じております。

求められております。インターネットを使った会議や講演会の開催、リモートワークが進み、地方で活躍を希望する人たちが移住する後押しとなることを期待しております。

新型コロナウイルス感染症で分断されていた人と人とのつながりは、紡ぎ直され、地域コミュニティも重要視されております。平成17年5月に26校あった小学校は現在15校となり、地域を支える上で重要な人口は減少しております。一方、新発田の歴史・文化・自然・産業など、住みよいまちの良さを

課題などへの理解を深め、ふるさと新発田への愛着を育むことを目的に、市内小中学校では「しばたの心継承プロジェクト」が行われております。若い方たちにも新発田への愛着を持ってもらい、未来においても新発田を選んでいただけるように、市議会としても力を尽くしたいと思っております。

また、市議会では、市民の皆様の声をお聞きする場として市内各地で議会報告会を開催しております。さらに、市民の皆様からの声をお聞きする大切な機会を広げていくため、各団体と

意見交換を行う場も設けさせていたいただいております。引き続き、さまざまな課題の解決に向け、市民の皆様と真摯に向き合い、皆様からのご意見を伺いながら、誠心誠意、議会活動に努めてまいります。

どうぞ市民の皆様におかれましては、今年も議会活動にご理解を賜りますようお願い申し上げます。本年が皆様にとりましてより良き年となりますことをご祈念申し上げます。



新発田市議会議長
若月 学



新発田市長
二階堂 馨